

# BCJ-SAR ISOだより Vol.27



財団法人 日本建築センターシステム審査部  
〒101-8986 東京都千代田区外神田6-1-8  
TEL 03-5816-7522  
FAX 03-5816-7544  
ホームページ <http://www.bcj.or.jp>  
Eメール [sinsa@bcj.or.jp](mailto:sinsa@bcj.or.jp)

ISOだよりの所有権はシステム審査部に帰属します

## 我が社のISO(その25)

共立工業 株式会社

総務部長

鈴木 雅徳



### 『業務実態に合わせたシステム作り』

当社は創業百年を超え、地元において官公庁の工事を主体に営業してまいりました。しかし、平成15年度より「ISOの認証取得が、今後の入札指名に大きく反映され、指名されないことも生じる可能性がある。」との切羽詰まった状況で、駆け込む勢いでコンサルより指導を受け、認証取得に至りました。

もとより、現場担当者には「仕事が増える。」と、始めから非協力的でした。コンサルが当社の実情に合った二次及び三次文書を作成するために足を運んでいただいても、「現場が忙しい」「現場を抜けられない。」と、ほぼ100%コンサルから指導を受け作成したマニュアルとシステム文書で運用してまいりました。ISOの基本理念も理解しようとして、当社のマニュアルも飾り物となっており、内部監査やマネジメントレビューも外部審査のために記録に残し、形骸化されていた次第です。

ところがここに来て、総合評価やあるいは民間受注に企業の方向性を見出す必要性が生じ、埃の被った当社の品質マネジメントシステムを再度見直し、品質マネジメントシステムの本来の目的を達成することが一番の近道であり、最も建設的なことであると再認識しました。

昨年9月のマネジメントレビューより、週1回必ず部署長が集まり、プロセスの不具合、現状との相違等、運用にあたっての合理性を追求すべく会議を行うに至りました。ずいぶんと回り道と時間がかかりましたが当社独自の品質管理で顧客満足を高め、地域において頼られる企業へと、再出発したいと思っています。

### 共立工業 株式会社 の概要

沿革：

明治40年 小池工業所として創業  
昭和23年 共立工業株式会社設立

主な事業内容：

建築物の設計、工事監理、施工及び  
土木構造物の施工並びに管工事

所在地：千葉県

## 審査員の日(その28)

安藤 亮一

システム審査部  
登録審査員  
JRCA登録主任審査員  
CEAR登録主任審査員



### 『建設業における ISO9001 7. 5. 2項プロセスの妥当性確認』

「製造及びサービス提供に関するプロセスの妥当性確認」については、今までにもよく取り上げられてきた話題ですが、いま一度確認してみたいと思います。

建設業でISO9000シリーズへの取組みが始まった頃、当時の規格1994年版に基づいて、このプロセスは「特殊工程」として取り上げられ、多くの組織に、「圧接」と「鉄骨の現場溶接」が該当するとされました。今でもこの考えが踏襲され、維持審査の場面では、このプロセスの対象は「圧接」と「鉄骨の現場溶接」であるとされている組織を見受けます。

システム審査部の審査方針では、「どのプロセスを対象とするかは、組織が決定することである。」としていますが、このプロセスの対象とならないプロセスについては、製品要求事項が満たされていることを検証するために、製品の特性を監視、測定できることが必要です。(8. 2. 4項)

建設業の実態を見ると、このプロセスの対象とはしていないが、プロセスの妥当性確認で済ませているケースが多々あるのではないのでしょうか。

建築工事の工程ごとの製品要求事項は、例えば杭工事であれば「杭の耐力」、防水工事では「建物を使っている間、水が漏らないこと」、塗装工事では、その目的(鉄骨の塗装、家具の塗装、外壁の塗装など)によって異なりますが、鉄骨の塗装では「何年間か錆びないこと」などが考えられます。これらの特性については、通常の施工では工事期間中に監視、測定しているものはほとんどありません。(杭の耐力については、多大な費用と時間がかかるために耐力試験はほとんど実施されていませんし、防水、塗装も何年か経たないと確認できません。塗膜厚を測る場合がありますが、溶接、圧接の外観検査、超音波探傷などと同じく手順通りの施工ができているかを確認しているに過ぎません。)

こういう目で見ると、そのほかの多くの工程が同様ではないでしょうか。土木工事でも同じだと思います。多くの場合、これらの工程については、メーカーの暴露試験あるいは過去の施工実績などで、プロセスの妥当性が確認され、計画通りの結果を出せることが実証されていて、設備、要員の適格性確認、所定の方法、手順、記録などを含めて標準書、規準等が定められ、そのとおり実施すれば製品要求事項を達成できるとして施工しています。

また、7. 5. 2項では妥当性の再確認が大切ですが、圧接、溶接の抜き取りの引張あるいは曲げ試験が該当します。防水、塗装については引渡し後の定期点検などでの確認が、妥当性の再確認にあたるのではないのでしょうか。

一度、7. 5. 2項と8. 2. 4項の関係を見直してみたいはいかがでしょうか。

## ■ JIS Q 9001の追補改正による 対応について ■

JIS Q 9001:2008の発行に伴い、2008年12月2日付け(BCJ-QMS-08-002)「発行に伴う認証の移行について」にてご案内させて頂いたとおり認証を移行期限(2010年12月19日)までに2008年版に切り替えて頂く必要があります。

2008年版への移行に係る審査は、通常のサーベイランス又は再認証審査時に実施いたします。

今後のサーベイランス、再認証審査は2008年版で受審して頂くこととなりますので御注意ください。移行期限までに切替えない場合は認証取消となりますのでご注意ください。



## ■ 今後開催される認証判定会議の 日程は下記の通りです ■

品質、環境とも同日開催です。

平成22年
5月26日(水) 13:00~
6月23日(水) 13:00~
7月28日(水) 13:00~
8月25日(水) 13:00~
9月22日(水) 13:00~
10月27日(水) 13:00~

(財)日本建築センター(東京都千代田区)にて開催致します。

## ■ ISO/IEC17021移行認定に 伴う認定シンボルの変更について ■

JAB認定シンボル及びシステム審査部認定番号が変更になりました。品質と環境では新しい認定シンボル等への変更期限が異なっていますので、ご案内いたします。

	品質	環境
JAB認定 シンボル及び システム審査部 認定番号の 変更 品質:CM018 環境:CM055	2008/5/1 ~	2008/9/1 ~ 2010/10/31
組織認証 番号表記の 変更 品質: BCJ-QMS- 環境: 変更は ありません	2010/6/30	

## ■ 再認証を迎える組織の皆様へ お知らせ ■

審査時期によっては、審査が混み合う事が予想されますので、余裕をもって再認証申請書(品質)又は再認証申請書(環境)をご提出いただきますようお願いいたします。(再認証申請書の他に「申請者調査表」の提出が必要になります。)

申請書及び調査表は(財)日本建築センターホームページ(<http://www.bcj.or.jp>)よりダウンロードしていただきますようお願いいたします。なお、ご不明の点等がございましたら下記までお問い合わせ下さい。

システム審査部

TEL 03-5816-7522

FAX 03-5816-7544

## ■システム審査部職員の紹介■



システム審査部 審査課  
飯田 喜一郎

システム審査部審査課の飯田です。日頃よりISO認証組織の皆様には、大変お世話になっており、厚く御礼申し上げます。

私は1997年1月にシステム審査部に着任して以来、13年半の長きにわたり審査業務に携わってまいりました。

着任当初はシステム審査部がISO審査業務を立ち上げてから間もない時期でしたが、審査業務の責任者として、97年6月に財団法人日本適合性認定協会(JAB)からQMSの認定を、また、99年12月にはEMSの認定を受けて今日に至っております。

当時ISOは建設業に馴染みのない規格でしたので、「建設・設計分野におけるISO9000規格解説と審査チェックリスト」「イラストでわかる規格の意味と解説/建設業のISO14001:2004」などの執筆に関わり、普及に努めてまいりました。

現在はQMSとEMSの統合審査を受審される組織様の窓口担当者としております。規格の意図やシステム運用上でお困りの際は、コンサルタントに当たらない範囲でご相談に乗りたいと存じますので、ご連絡いただければ幸いです。

ISOだよりのバックナンバーは、(財)日本建築センター ホームページ(<http://www.bcj.or.jp>)の「ISO審査」でご覧いただけます。ISOだよりに関するご意見もお待ちしております。



システム審査部 審査課  
大田 玄八

システム審査部審査課の大田です。認証組織の窓口業務を担当して5年目になります。

私は、財団法人日本建築センターへ入社以来、技術評価業務、出版・講習会等の情報提供業務、確認検査業務、マネジメントシステム審査業務などの数多くの業務を経験し30有余年を経てきました。

また、大阪事務所勤務時代の1999年には、品質の主任審査員資格を取得し、以来、建設業、設計事務所等で数十社の審査実績を積んできております。建設業界は大変な不況の状況にはありますが、このような時にこそQMS、EMSの活用が望まれると考えます。

今までの経験を活かし、認証組織の皆様が、これらのマネジメントシステムを効果的に運用できますようお役に立ちたいと思っています。お気付きの点などございましたら遠慮なくお申しつけ下さい。



### 編集後記

春の到来を告げてくれた桜の花に先日、東京で雪が積もりました。天候の不安定な日が続いています。

皆様におかれましては、体調にくれぐれもお気をつけてお過ごしください。どうぞお祈り申し上げます。

システム審査部では認証組織の皆様にも本年度も役立つ情報の提供を心がけて参ります。宜しくお願い致します。

## 品質マネジメントシステム新規認証組織紹介(2010年1月～3月)

認証番号 (BCJ-QMS)	事業所名	主な所在地	認証された品質マネジメントシステム
0880	有限会社 大森組	栃木県真岡市	土木構造物及び建築物の施工
0881	穴澤建設株式会社	福島県喜多方市	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工

## 環境マネジメントシステム新規認証組織紹介(2010年1月～3月)

認証番号 (BCJ-EMS)	事業所名	主な所在地	認証された環境マネジメントシステム
0162	富士化水工業株式会社	東京都港区	環境保全プラントの設計、施工及び保守管理並びに機器製作、製作
0163	秋田土建株式会社	秋田県北秋田市	土木構造物の施工並びに建築物の設計、工事監理及び施工
0164	株式会社 梓設計	東京都品川区	建築物の設計業務、監理業務並びに関連する周辺業務